

序

当水産増殖センターは、昭和43年発足以来5年余を経過したわけではありますが、その間沿岸漁業の振興を目途として、浅海増養殖に関する基礎研究と種苗生産を柱として、調査研究を進めて来ました。

昭和47年度事業概要を刊行するに当り、この年を回顧してみますと、この昭和47年度は、当水産増殖センターにとって、種々な意味での画期的躍進の年であったと思います。

と云いますのは、栽培漁業の全国化をはかるという国の方針に基き、昭和46年度から基礎調査を開始している日本海区に引続いて、太平洋北区、同中区、東シナ有明区で基礎調査を実施する運びとなり、青森県では陸奥湾を対象として太平洋北区に参加することになり、又指定試験研究として、カレイ類種苗生産試験をとり上げ、魚類についての調査研究に本格的にとり組むことになったこと、また一方今別町地先を対象にコンブの海藻団地造成と称される大規模増殖場開発調査、尻屋を対象とするコンブの海中林を造成して、アワビ、ウニの増殖をはかろうとする別枠研究「浅海域における増養殖漁場開発に関する総合研究」、陸奥湾の総合開発研究として、陸奥湾漁業開発基本計画調査等の大仕掛けな新規事業が始まり、俄に調査面が活発になってきたこと等であります。

なお、その上当水産増殖センターは、はからずもホタテガイ栽培漁業の確立に寄興したとの事で、昭和47年1月、河北文化賞、同年2月県表彰、翌48年12月には東奥賞を受賞いたしました。重ね重ねの受賞で、この上ない榮譽と思っております。

このような榮譽に浴することが出来たのは、陸奥湾水産増殖研究所時代からの歴代の所長始め職員の努力もさることながら、関係大学、国立水産研究所、各県水産試験場の方々の御懇切なる御指導と県内漁民、行政担当の方々の熱烈な御支援があったればこそでございます、ここに厚く御礼申し上げます。

職員一同今後益々御期待に副うよう努力して行く覚悟でございますので、一層の御指導、御鞭撻を賜りますれば幸と存じます。

昭和48年12月14日

青森県水産増殖センター

所長 津 幡 文 隆